

海外事務所
だより

個性溢れる街づくりを
目指す自治体

シドニー事務所所長補佐 亀井 帝 (奥州市派遣)

シドニー事務所

自治体訪問

シドニー事務所の日々の活動において、自治体を訪問し、その取り組み、直面する課題、今後の計画などについて学び、情報を蓄積しています。今回はその中から、個人的に興味深いと感じた例をご紹介します。

カリカリ・タウン

シドニーから北へ約一五〇キロに位置するカリカリ・タウンはセスノック市に所在する面積約五平方キロメートル、人口約五六〇〇人の小さな町です。「カリカリ」とは、アボリジニの言葉で「急げ!」を意味します。とは言っても、忙しい町を意味するのでは

なく、短期間で形成された町を意味しています。町の経済は、アルミニウムの製錬及び、ワイナリーを基盤としつつ、これからご紹介する観光産業にも力を入れております。

○壁画の町―魅力のある町を目指して

ニューサウスウェールズ州・地域開発省では、地域経済発展プログラムを推進しており、発展を目指す計画に対し、助成金を支出しています。

カリカリ・タウンでは、独自のアイデアを用いて、魅力のある町づくりを目指しています。この町の最大の特徴は「壁画」です。町内に存在する建物の壁をキャンバスに見立て、アーティストに依頼し、絵を描いてもらいます。作品制作に係る経費は前述の助成金より捻出しています。

このようにして制作された作品は四五点にも上り、主に町の中心部に存在します。



↑ユニークな壁画が街中に存在し、人々を楽しませる

この壁画を観光の目玉として、町は観光客の誘致に力を入れていきます。

○町民で支える観光事業

これらの壁画見たさに訪れる人々は年を追う毎に増えています。町にはツアーガイドが一八名おり、すべて地元のボランティアで賄われています。月平均一五のツアー依頼があり、ガイドは訪れた人々に対し、効率良く壁画を見て回れるように案内し、各作品の説明を行います。ガイド達は皆地域へ

の誇りを強く抱いており、訪れる人々を暖かく迎え入れてくれます。

○実態分析そして今後の課題

町は観光客に対しアンケートを実施し、現状把握及び改善点等の発見に努めています。

経済発展に重点を置いたプログラムというところから、アンケートは観光客の消費活動に着目しております。その結果、一人当たり平均二ドルを消費しており、その使途の多くは食事に費やされることがわかりました。町は今後、消費額の増加を目指し、地域のさらなる前進に力を入れています。

アンリー市

南オーストラリア州の州都アデレード市に隣接するアンリー市は面積約一四平方キロメートル、人口約三万八〇〇〇人という人口密集型の街です。安全な環境を維持し、人々が地域を誇れる街、個性豊かな街、経済発展の街を目標に掲げています。

○子育てに優しい街

先述した街の目標に向け、数多くの取り組みを実施しているアンリー市。南オーストラリア州は人口増加が国内でも二番目に低い州であり、アンリー市も例外ではありません。家族形態も変化し、単身者や若いカ

ップル、高齢世帯が増えています。コミュニティサービスの充実、環境保護、インフラの整備などにも力を入れています。今回は保育への取り組みに着目しました。

○アンリー市図書館

アンリー市の図書館には書籍のほか、キッズスペースを設け、歌と踊りを楽しむプログラムや本を読み聞かせるプログラム等揃えています。これらについては他の街や日本においても取り組まれており目新しさはあまり感じませんが、もう一つ非常にユニークな取り組みが存在します。

○玩具の貸し出し——Toys Library

書籍が並ぶ図書館の一角に玩具貸し出し



↑本日借りるおもちゃを探しに訪れた親子



↑所狭しと並べられている数々のおもちゃ

所があります。書籍同様、気に入った玩具を借り、自宅で遊び、それをまた返却します。貸し出し料はもちろん無料です。小さな子供にとって、玩具はいくらあっても良いもの。しかし、その全てを買い揃えることは金銭的負担が大きいですし、現実的ではありません。また、子供はすぐに飽きてしまうので、その置き場に困ることでしょう。この玩具の無料貸し出しは、親にとっても子供にとっても魅力的なサービスであり、画期的であると感じました。

玩具はそれぞれバーコードタグで管理されています。我々が訪問した時も、多くの親子が訪れ、実際に手に取りながらその日に借りる玩具を選んでいました。

これら玩具というのは、一部は市民からの寄付によるものですが、大半は市が購入し



↑ホバート市内一角の風景

ホバート市

タスマニア州の州都であるホバート市は面

たものだそうです。利用者からの評判も非常に良く、今後さらに充実させたいとのことでした。貸し借りのノウハウというのは図書と変わらないため、導入については特段問題は無く、まさにアイデアの勝利という印象を抱きました。

日本でも子育て環境の充実は大きな課題の一つとなっております、このように自治体訪問を通じて好事例を学ぶことは有意義であると感じます。

積約七七平方キロメートル、人口約五万人で、シドニーに次いでオーストラリアで二番目に古い街です。自然豊かな環境が特徴で、その保全と都市開発に力を入れています。

○環境保全と都市開発

ホバート市は先に述べたように自然豊かで歴史のある街です。その環境を守りながら街を開発するという、一見相反する目標を掲げており、その取り組みに注目しました。

景観を大切にしていることから、ビル等を建てる際には、高さに制限が設けられ、また建造物へ広告などの看板設置にも制限が設けられています。自然を保護する区域と開発区域が分けられており、限られた条件下で開発が進められています。

都市が発展するということは人口増加を伴うわけであり、前述のような条件ではいずれ限界が生じるのではないかと思ひ、率直に担当者に質問を投げかけたところ、その点については、例えば交通網を充実させることで、都市部と郊外へのアクセス利便性が向上し、シテイへの人口集中を防ぐことが可能とのこと。また、物理的スペースに不足が生じた際には改めて開発区域の見直しを実施し、住民との検討を経て環境保全にも努めるとのことでした。緑を切り崩して街を開発することは容易なことですが、一度失った緑を再び取り戻すのは極めて困難なので、開発・保全の両立、バランスが自治体に求

められています。住民の声に耳を傾けながら開発を進めるといふ説明を受け、まさにここに自治の原点があることを再認識しました。



↑ウェリントン山から見下ろす街全体の様子

自治体訪問を通じて感じること

自治体を訪問しその取り組みについて学ぶ際に強く感じることは、皆それぞれ自分の街に誇りを抱き、熱意を持って業務にあたっているということです。それは当然のことではありますが、私も同じ市役所職員として、彼らの姿勢を目の当たりにすることで、自分が今後どう仕事に接して行くべきか、あるいはどのように地元を発展させて行くべきなのかじっくりと考える機会になり、非常に有意義であると思ひます。日本を離れ、改めて日本について深く学んできます。オーストラリアで学んだことを日本の地方自治に還元できるよう、今後より一層努力を重ねてゆきます。

海外生活 だより

シドニー事務所

便利な市民の足 シドニーバス

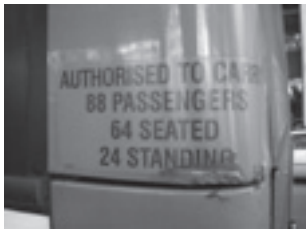
シドニー事務所所長補佐 与那領 隆 (沖縄県派遣)

国土面積が日本の二〇倍もあるオーストラリアでは、日本の大都市のような地下鉄は発達していません。シドニーでの主な公共交通機関は電車、バス、フェリーで、これらを組み合わせると大抵のところには出かけることができます。ニューサウスウェルズ州の運営するシドニーバスは市内中心部と郊外の広範囲なエリアを網の目のように三〇〇以上の路線を張り巡らし、一九〇〇台以上のバスで運行され、一日六〇万人、年間に二億人が利用するシドニー近郊で生活する人々にとって欠かせない重要な交通手段となつていきます。ここでは毎日バス通勤することとなった私が感じ体験したことを書きたいと思います。

ベンディー・バス



↑ベンディー・バス (bendy bus)



↑車体後部をよくみると傷があることも…

東洋人が西洋人の社会に入つてまず感じるのは、体格の違いによるあらゆるもののサイズが大きいことだと思ひますが、電車のように二つの車体が接続した巨大なバスを初めて見た時も驚きました。「bendy (折れ曲がる) bus」と呼ばれるそのバスは全長約一七メートルで立ち乗りを含めて八〇人以上の乗客を乗せることができ、主に長距離路線で大量の人員を効率的に輸送しています。シドニーから帰宅する際に、一〇〇人ぐらい

の長い行列ができていたのですが全員乗れてしまった時には改めてその大きさを実感しました。

また、シドニーバスは日本では「ノンステップバス」と呼ばれる仕様で、前後の乗降口が低くて段差が無く、床がフラットになっており、乗り降りが非常に楽ですが、多くの新しいバスはさらに工夫がされています。バス停で扉が開く時、よくプシューという音がしますが、それは空気を調節して車体を低くし、高齢者や子供が乗りやすいように配慮されているのです。その機能は「kneeling」(膝をつく)と呼ばれ、すべての乗客への安全性が高まります。また、車椅子やベビーカーも乗れるように折畳み可能な座席を前方に配置し、通路の幅も広く取つてある車両もあり、身体の不自由な方などへの配慮がされています。オーストラリア人は赤いシートの優先席に限らず、高齢者等に席を譲る行為が普通に見られ、親切な方が多いです。

半ズボン運転手

多民族国家のオーストラリアですが、バスの運転手の多くは体格の大きな白人男性です。彼らの夏のユニフォームは涼しげな半そで半ズボンで、気さくで明るい一般的なオージーのイメージそのものです。乗客もそんな彼らに対して気軽に挨拶して乗り込み、



↑「kneeling」しているバスに乗り込む乗客



↑車椅子用スペース

バスを降りる際には後部の降り口からでも大きな声で「thank you」とお礼を言います。とても清々しい気持ちのする光景です。私もバスを降りる際は自然とお礼を言うようになっていきます。親切な運転手も多く、赴任当時のまだ乗り方に馴れない頃、乗車時に目的地を告げるとこのバスはそこまで行かないからと別のバス停の近くまでタダで乗せてくれたことも何度かありました。

ただ、運転は少々荒く、急発進や急ブレーキなどで大きく揺れるので立っている間はポールにしっかりとつかまっている必要があります。ある時、古い街並みの残るロックス地区での乗車中に、突然ゴツンという大きな音がして車内が少し揺れました。対向するバスと徐行しながらすれ違う際、車両の後部を擦った際の衝撃音でした。しかし、バスは特に停車することもなく何事もなかったかのように進行を続けるのでした。日本ではめったに遭遇しない出来事です。細かいことを気にしないだけなのか、運転が上手でないだけなのかわかりませんが、怖い思いをしながらもちよっとおかしくて笑ってしまいました。

インスペクター

シドニーバスの不便な点は日本のように次の停留所を告げる車内アナウンスがなく、バス停も名前がないため、土地勘がない地域に行く際は降りる場所の判断が難しいことです。乗車時に運転手に行き先を告げて運賃を支払いますが、その際に目的地に着いたら教えてくれるよう頼んでおくか、地図にとらめっこしながら現在地を追い続けるため、行き先のごまかしや回数券のチケットを運転手から離れた機械に通す振りをするなど不正乗車が起きやすく、それを取り締まるため、インスペクターと呼ばれる警察のような制服を着た監視員が時々乗り込んで検札を行い、違反者には百ドル以上の高額な罰金が科せられます。オーストラリアではルール違反は高額な罰金で厳しく罰せられるため、赤く塗られたバスレインには乗用車が入り込んでくるのがほとんど無く、朝夕のラッシュ時でもバスの流れは比較的スムーズです。

無料バス

シドニーバスの運賃は距離に応じて五段階に分れ、初乗りがドル九〇セントで最高が六ドル一〇セントとなっています。(二〇〇九年五月現在、一豪ドル約七〇円) 電車やフ

エリーと組み合わせても安くなりますし、回数券や三カ月、一年など長期の定期券を買うと二〇%以上の値引きがあり、しかも指定された広い範囲で乗り放題となるのでお得です。

二〇〇八年十二月から、州は年間三〇〇万ドルの予算をかけて、シティー内を巡回する無料バスの運行を開始させました。買い物客等の利便性向上、渋滞緩和、排気ガス削減などを狙いとしています。また、バス一台に付き乗用車四〇台分相当の排気ガスが削減できると宣伝しています。一〇分おきに來るため、待ち時間が短く大変便利で私も週末はチャイナタウンに行く際などよく利用しています。ずっと継続してもらいたいサービスです。

おわりに

一年間通勤で乗り続けたシドニーバスも、今では目的地に応じてマップとタイムテーブルも手に入れ、時にはインターネットを活用したりしてかなり上手に乗りこなせるようになりました。バスの中では様々な言語が飛び交い多民族国家を肌で感じます。バスでの出来事一つにしても、日本で気づかなかったことが見えてくるので興味深く、初めは不安で乗っていたバスに今ではすごく愛着を感じています。残りの赴任期間もバスの中から見えるシドニーのきれいな風景とともに楽しんでいきたいです。